

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300641
法人名	有限会社 広 優
事業所名	グループホーム 織月の郷
訪問調査日	平成21年11月6日
評価確定日	平成22年1月3日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300641
法人名	有限会社 広 優
事業所名	グループホーム 織月の郷
所在地	鹿児島県鹿屋市川西町2483番地 (電話) 0994-42-6667

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿屋市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年11月6日	評価確定日	平成22年1月3日

【情報提供票より】(21年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	13 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 18.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	65 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉記念病院・おばま医院・渡辺歯科・上村歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に建てられている当ホームはリビングが広く、畳の部分も合わせると50畳ほどある。開放的なリビングからは広い芝生の庭に出ることができ、近隣の幼稚園生や高校生が訪れ庭のかまどでご飯を炊き、利用者とともに庭でピクニック気分を味わっている。また、広いリビングは日常生活でホーム内を移動するだけでも利用者にとってリハビリとなっている。「今日を大切に！今を大事に！利用者との思い出作りを共に楽しみましょう！」をホームのモットーに職員は1日1笑を心がけ「良い人生だった」と思ってもらえるような日々を送れるように支援している。また、利用者が望むことは「100%叶えてあげたい」との思いが、危ないからやめるではなく、やってみようとして常に前向きにその時その時の感動を味わってもらい、悔いのない人生が送れるように取り組んでいる。職員にとっても利用者の笑顔が見られることが仕事の励みになっており、質の高いケアの提供ができています。開設して7年が経つが「常に満足することなくもっともっとの思いで日々取り組んでいます」との管理者の言葉に更に充実したグループホーム運営が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念については職員全員にアンケートを実施し、話し合いを持つなど全員で検討した。職員の研修計画も作成し、職員育成に取り組んでいる。災害対策も通常の避難訓練に加え地震訓練も行うなど利用者の安全を支えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員で話し合い、自己のケアを振り返り、見直すことでサービスの向上につながるよう取り組んでいる。職員から「今後も更に利用者一人ひとりの個性を引き伸ばすケアに努めていきたい」との前向きな意見も出た。外部評価の結果は家族に配布し、運営推進会議でも報告している。自由に閲覧できるように玄関にも置いている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町内会会長、民生委員、家族代表、利用者、行政関係者などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。利用者の自然な表情や言葉を聞いたり見たりしてほしいとの思いで毎回ではないが、可能な限り利用者にも出席してもらっている。家族代表も特定はせず、出席できる方々に参加してもらっている。参加者から地域の催し物の情報やボランティアの情報などをもらい、運営推進会議がホーム運営に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営者、管理者は家族などの意見を汲み上げる重要性を認識し、重要事項説明書に苦情相談の受付窓口を明示している。出された意見、要望などについては職員とともに検討し、結果を伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、ホーム便りを回覧で配布したり、子どもの日に利用者とともに作ったけせん団子をおすそ分けにまわったりと交流に努めている。また、地域のごみステーションにカラス除けの網を張り、付近の草取りをするなど、地域の一員として活動している。子ども達との交流も盛んで、幼稚園児がおゆうぎを披露しにきてくれ、広い芝生の庭で利用者とともに昼食をとったり、高校生の訪問の際は庭のかまどでご飯を炊き、おにぎりや豚汁で利用者と一緒にピクニック気分を楽しんだりしている。中学生の職場体験の受け入れもしており、運動会見学にも出かけている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「たおやかに凜として」をホームの理念に掲げ、「住み慣れた地域の中にある織月の郷で地域に根ざしたグループホーム作りに励みます」との補足もある。今年度は理念について職員に見直しを含めたアンケートを実施し、結果、職員にとっても「たおやかに凜として」が浸透しているとしてホームの理念に掲げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、職員用トイレに掲示し、ホームのパンフレット、ホーム便り、重要事項説明書にも明記している。ミーティング、会議などで理念を確認しており、入社時に玄関に掲示してある理念を見てから業務に入る職員もいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ホーム便りを回覧で配布したり、子どもの日に利用者とともに作ったけん団子をおすそ分けにまわったりと交流に努めている。また、地域のごみステーションにカラス除けの網を張ったり、付近の草取りをし、地域の一員として活動している。子ども達との交流も盛んで、幼稚園児がおゆうぎを披露しにきてくれ、広い芝生の庭で利用者とともに昼食をとったり、高校生の訪問の際は庭のかまどでご飯を炊き、おにぎりや豚汁を利用者とピクニック気分を楽しんだりしている。中学生の職場体験の受け入れもしており、運動会見学にも出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員で話し合い、自己のケアを振り返り、見直すことでサービスの向上につながるよう取り組んでいる。職員から「今後も更に利用者一人ひとりの個性を引き伸ばすケアに努めていきたい」との前向きな意見も出た。外部評価の結果は家族に配布し、運営推進会議でも報告している。自由に閲覧できるように玄関にも置いている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会会長、民生委員、家族代表、利用者、行政関係者などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。利用者の自然な表情や言葉を聞いたり見たりしてほしいとの思いで毎回ではないが、可能な限り利用者にも出席してもらっている。家族代表も特定はせず、出席できる方々に参加してもらっている。参加者から地域の催し物の情報やボランティアの情報などをもらうなど、運営推進会議がホーム運営に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービスについての相談や助言をもらうなど、機会を捉えては連携をとるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問日(納金、病院受診)に利用者の状況報告と預かり金の金銭確認、残薬確認などを行っている。遠方の家族には毎月担当者より手紙と電話で報告している。緊急の場合はその都度電話にて連絡している。職員紹介は面会時、行事での来訪時などに紹介している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者、管理者は家族などの意見を汲み上げる重要性を認識し、重要事項説明書に苦情相談の受付窓口を明示している。出された意見、要望などについては職員とともに検討し、結果を運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ゆとりのある職員数を確保しており、ユニット間の交流もあるので離職や異動のあった際も利用者へのダメージを最小限に抑えるような体制を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成の必要性を理解し、年間の研修計画を作成して常勤、非常勤に関わらず、全職員が交代で研修に参加できるようにしている。外部研修参加者は職員会議で研修報告をし、他の職員に伝達している。また、資格取得の支援もしており、資格取得者には手当を支給し、功績を評価している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おおすみ地区グループホーム連絡協議会に加入し、職員は交代で研修会などに参加して情報交換や交流をしている。相互訪問や他のグループホームの運営推進会議に参加することもあり、ともにサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>グループホーム入居前に本人、家族に見学してもらい、納得のうえで入居してもらっている。病院などからの直接入居の場合は面会に行き、本人、家族から十分に話を聞いてコミュニケーションを図っている。慣れるまで家族に宿泊してもらったり協力をもらいながら徐々に慣れるように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を介護されるのみの立場に置かず、人生の先輩としてさまざまなこと(味噌作りや高菜漬けなど)を学んだりしている。ときには心配してもらったり、穏やかな笑顔が見られるとうれしくなるなど、喜怒哀楽とともにし、支え合う関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で、自己決定の場面作りに努め、言動や表情から一人ひとりの思いや意向を把握するようにしている。また、意思を伝えることが困難な利用者は家族の協力や日頃の行動から各スタッフが把握している情報を共有し、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意向、目標、スタッフの意見を集約し、本人が取り組みやすい本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月モニタリングを行い、見直しの必要性を検討し、個々の生活記録から支援経過を作成し、見直しに活かしている。また、3ヵ月ごとに見直しを行うほか、状況変化時や入退院後の見直しはその都度行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、病院受診や自宅訪問など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。定期受診以外に体調不良時の受診などは、職員も家族に同行してホームでの生活状況などを医師に説明し連携を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在り方については入居時に家族の意向を聞き、話し合っている。ホームの方向性は統一されており、本人の状況を見て、職員、家族、主治医と話し合って対応している。		利用者の高齢化に伴い、重度化や終末期に向けた方針は統一されているが、今後はホームができる支援を文書化したものを作成するとともに、家族への同意書をもらうことを検討することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのこれまでの歴史を尊重し、誇りやプライドを損なわないように心がけている。ホーム便りへの掲載などは本人、家族の同意を得て、職員採用時に個人情報保護についての誓約書もとっている。定期的に接遇に関する研修も行い、確認している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念の捕捉にあるように一人ひとりが主役であることを念頭にその人のペースで生活出来るように支援している。起床、就寝などもできるだけ、今までの生活習慣に合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせて下ごしらえ、味見、菜園の野菜採りなど職員とともに行うなど、力を発揮できる場面を作っている。正月には酒も希望により出して楽しんでもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制ができており、時間帯も希望に応じいつでも可能である。ときには、銭湯を貸り切って職員、利用者全員で温泉を楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	郵便物を取りに行く利用者や金魚の餌やり、調理、茶碗洗い、ごみ入れ袋作りの役割分担や裁縫や籐のかご作り、書道などの特技を活かした生きがいづくりの支援。また、花見、外食、ソーメン流し、お祭り見学などさまざまな気晴らしの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩、ドライブ、買い物と外出の機会を設けている。クリスマスの時期は高台からイルミネーションを見学するため夜のドライブを楽しむこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、管理者は鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。プライバシーに配慮しながら個々の日常生活を把握し、常に安全で自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署、地域住民の協力の下、昼夜間想定で避難訓練を行っている。各居室の入り口に空の下げ札を設けており、救助済の目印にしている。緊急連絡網に近隣住民も入ってもらうなど協力を得られる体制が出来ている。また、今年度は地震訓練も実施し、今後は地域の消防分団とも合同で避難訓練を行う予定である。非常用備蓄は2～3日分の食料や水は確保しており、カセットコンロも準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はチェック表にて個々の状態の把握に努め、身体状況に応じて食事形態(おかゆ、刻みなど)を考慮している。国産のものを利用し、食の安心、安全に配慮している。栄養バランスは定期的に栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のリビングは畳部分を含め、50畳ほどあり、庭に面しているので窓も大きく開放的である。畳コーナーには掘りごたつとテレビがあり家庭的な雰囲気である。換気が行きとどいており、清潔感がある。居室からリビングへの移動も利用者にとってはいい運動になり、ホーム内でリハビリにもなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳の部屋とフローリングの2種類がある。ベッドのみが備え付けで布団は好みのものが持ち込まれている。籐のソファやついたて、テーブルや椅子、ラジオ、家族の写真などが持ち込まれ居心地良く過ごせるように工夫されている。勉強が好きだという利用者の居室には机とイスがあり、手芸の得意な利用者の居室は手作りの小物がたくさん飾られている。居室の窓は掃き出し窓になっており、開放的で家庭的な雰囲気である。		